

## 丹波市未来都市創造審議会（第4回） 会議録（要旨）

- 日時：平成30年12月27日（木）午前10時～
- 場所：氷上住民センター 大会議室
- 出席者委員：
  - 識見を有する者：角野幸博委員、岡絵理子委員、北川博巳委員
  - 公募による市民：荻野美恵子委員、白滝里香委員、本庄健吾委員
  - 公共的団体の代表者：大野亮祐委員、酒井浩二委員、大谷吉春委員、吉住孝信委員、田中延重委員、坂谷高義委員
  - 各種団体等から選出された者：足立はるみ委員、足立由夏委員、大木玲子委員、十倉貫委員
  - 関係行政機関の職員：福本豊委員
- 欠席者委員：
  -
- 出席職員：
  - 丹波市副市長、技監兼入札検査部長、企画総務部長、企画総務部政策担当部長、財務部長、生活環境部長、まちづくり部長、福祉部長兼福祉事務所長、健康部長、産業経済部長、建設部長（代理：道路整備課長）、消防長、教育部長（代理：教育総務課長）
- 事務局：
  - 未来都市創造部長、未来都市創造部都市創造課長、未来都市創造部都市創造課都市政策係長

議事：（1）丹波市の新しい都市構造のあり方「まちづくりビジョン」について

- ①「まちづくりビジョン」素案について
- ②統合庁舎の候補地について
- ③関連施策（暮らしとまちの姿）について
- ④市民アンケート調査の結果（速報）について

資料：【資料1】丹波市の未来をえがくVOL.4 ニュースペーパー

【資料2】経費のロス等に係る試算比較

【資料3】中心部・ゾーニング・周遊に対する考え方

【資料4】丹波市の新しい都市構造のあり方「まちづくりビジョン」素案検討資料

【資料5】統合庁舎の候補地について

【資料6】関連施策（暮らしとまちの姿）についての検討資料

【資料7】市民アンケート調査結果（速報値）

## 1 会長あいさつ

皆さん、おはようございます。本日は全員お集まりいただいておりますので、濃い議論ができればと思います。

本日の議事は、20年先を見据えたまちづくりビジョンの根幹を成す都市構造について議論していただき、その上で、統合庁舎の候補地と関連する施策、市民アンケートの結果に基づいて議論を頂きます。

## 2 議事

### (1) 丹波市の新しい都市構造のあり方「まちづくりビジョン」について

- ①「まちづくりビジョン素案」について
- ②統合庁舎の候補地について
- ③関連施策（暮らしとまちの姿）について
- ④市民アンケート調査の結果（速報）について

事務局（一括で資料4～7の説明）

### ●まちづくりビジョン素案について

#### 【意見要旨】

##### 委員

中心部が広すぎるのでは。3つのゾーン（商業業務ゾーン、医療福祉ゾーン、行政ゾーン）を一括りにする方がよいのでは。また、今は車社会であるが、これからは、公共交通として鉄道駅が重要であり、生かす必要がある。

##### 委員

「まちづくりビジョン」については、中心部および周辺部の住民が、都市機能集約により簡単に移動でき、これまで以上のサービスを受けることができるという前提においての話が必要ではないか。買い物や病院等に行きたい場合や、小さい子どもを持つ母親たちが出掛ける場合は、中心部の広いゾーンの中を周遊できるのか。JRやデマンド（予約）型乗合タクシー等を活用するような話では、恐らく利便性向上にはつながらない。

中心部分に重点的に機能を集約化して、複合化しながら施設全体の面積、あるいは行政としてのコスト削減を考えなければ、周辺部にある老朽化が進んだ施設を廃止して終わりになるように見える。交通と都市機能は密接に関連しながら、ワンストップで用事を済ませられるまちづくりを考えられないことには、実態が見えてこない。

##### 委員

20年後の生活を考えた場合、現在とあまり変わらないのではないかと。今は、買い物・医療についてもそれほど不便とは感じていない。新しい要素で豊かになるような内容が示されていない。未来

について、自動運転など夢のある話をしたい。新しいことを内容に盛り込むと議論が楽しく展開するのではないか。アンケートの設問内容にも表れているとよかった。

#### 委員

暮らしとまちの姿について、他都市にない丹波市の要素としては、「観光による地域振興のあり方」と「丹波市での生業と余暇の過ごし方」が挙げられる。丹波市の観光資源としては、「恐竜化石」「水分れ」「紅葉」などがあり、生業としては、「農林業」「丹波の森づくり」などがある。

それらの特色を明確にまちづくりビジョンに打ち出していく、新しいものとして展開させていく必要がある。

#### 委員

計画の実現には、インフラ整備が必要不可欠である。自家用車しか利用できない状況は、問題である。路線バスの現状は、40名程度乗車可能なバスに5～10名程度しか乗っていない。提案として、本数の少ない大型バスに変えて小型バスを導入し、本数を増やして運用してはどうか。人口が増えれば、利用状況にあわせてバスを大きくすればよい。

#### 委員

中心部の商業施設は20年後にもあるのか。あることを前提にゾーンとして位置付けてしまうことへの不安があり、存続させるための施策が必要ではないか。商業機能、医療機能、金融機能は、民間依存であり、必要なものであれば担保することを考えなければならない。中心部から周辺部へいくと各都市機能が縮小されるように感じるが、観光・産業の機能は、周辺部から中心部へ突きあがるような可能性があり、ビジョンに書き込むことで楽しく地域イメージができるのではないか。例えば、周辺部の廃校にシェアオフィスをつくり、世界に向けて発信するようなことが考えられるのでは。

#### 委員

中心部の5つのゾーニングの考え方は、一定の理解ができる。もっと集約してはどうかという意見もあるが、一人の行動を考えると、一日のうちに様々な場所をめぐる行動はとらないと思う。不便なのは、行政が分散しており、もう少し集約されれば。市役所に行く時に、本庁舎に行くのか春日庁舎に行くかという不便がある。

#### 委員

都市機能の構造化の基本的な考え方において、鉄道、路線バス、デマンド（予約）型乗合タクシーに関心がある。公共交通は、利便性が確保されないと利用者が増えないので、乗り換えの利便性が重要ではないか。自治協議会のあり方の検討はされているが、高齢化もあり、組織について危惧している。統合庁舎の6候補地については、もっと絞り込む必要があるのでは。

## 委員

中心部が広いと感じており、中心部の中でさらにまとまりがあるところを作ってはどうかと感じるが。駐車場を中心として様々な施設が周囲にあり、車を止めて一箇所で用事を済ませることができる町を視察したことがある。コンパクトシティの観点から、交通網を考慮し、今後建設される施設は、中心部のさらに中へ集約すればどうか。

## 委員

周辺部の商業機能について、一般商店の利用についても記述してはどうか。住民自治について、自治協議会をどうしていくか検討が必要では。

## 委員

商業施設や公共交通などについては、民間に依存する部分が多い。将来においても、公共交通としてJRは重要であり複線化の目標があるが、利便性の向上から交通系ICカードの利用のような実現的なことを進めていけばどうか。商業施設について、新規に出店する際は閉店を想定して調査するので、20年後の予測は可能ではないか。特色ある店があれば、遠方からでも人は来る。

## 委員

JRの利便性向上を図ることから、交通系ICカードの導入を関西で開催される大きなイベントとして、大阪万博を一つの目標としてはどうか。

## 会長

頂いた意見を確認したい。中心部と周辺部という考え方そのものに異論はないようであるが、中心部をもう少しコンパクトに考える必要があるのではという意見があった。市域内の交通、中心部内の交通、中心部と周辺部の交通について利便性を確保することが大前提で、ゾーニング・施設配置が見えてくることであり、しっかりと重視して欲しいという意見であった。

今後のまちの姿については、基本は現在をベースとするが、観光や交流を踏まえると、まちの将来を楽しみにできる、誇りを持てるようなまちの姿、暮らしの姿をこの中で描いてほしいという意見があった。

商業施設の持続性については、市として商業ゾーンに賑わいを確保したいという姿勢を示すことが、民間事業者の営業戦略等に関係していくのではないかといった意見があった。

周辺部についても、生業や産業、観光、特色のある店舗等によって成立する可能性があるのですが、決して中心部が凄くて周辺部に魅力がないということではないという意見もあった。

自治協議会について、人口が減っていくという前提で、25地区がすべて同様になるのは現実的ではなく、ビジョンの中ではしっかりと自治協議会をベースに位置づけた上で、都市構造を構築することについては、異論はなかったように思う。

以上のように、事務局から出されたビジョンの骨格については異論がなかったと思うが、さらに説得力のあるものにするために、より精査していただきたい。

●統合庁舎の候補地について

委員

6つの庁舎の候補地は、空き地や市有地前提であるのではないかと。新庁舎を駅前に立地して、JRの利用促進を図るといふ考え方であれば、それも1つあると思うが。丹波市が行ったアンケート調査によれば、行動の目的で多いのが買い物と病院で、使っている交通手段は車であり、車での移動を考慮する必要があるのでは。住民の生活行動（買い物、医療・福祉）によって、庁舎位置を検討してはどうか。どこにどんな都市機能があれば行きやすいか、車と公共交通を用いてどこに行きたいかということを考えるべき。商業ゾーン、医療福祉ゾーンが重要ではないか。候補地として、氷上インターチェンジを降りた辺りの商業と医療とそれぞれの相互利用ができる場所を追加してはどうか。

会長

本日は、場所の件について、候補地の中でどこが良いか、悪いかという議論は行いません。それぞれの候補地の現状を見ていただく中で、「AよりもBが良い」と議論をする段階でないことだけはご理解ください。

委員

庁舎における重要な視点として、防災性、安全性の確保を挙げたい。

委員

庁舎の候補地について、机上だけでなく、現地を見るのが大事ではないか。

会長

同じ意見である。新しい発見があるかもしれない。候補地視察について、進めてはどうか。

委員

候補地の評価について、合併時には国の示した基準によって、項目ごとに点数化し、選定された経緯があったかと思う。当時の基準、条件はどうであったか。

会長

当時の社会状況と違い、今回は20年後を想定して場所を設定することになるが、統合庁舎をいずれかの場所にとり議論の方向性を考える上で面白い参考資料になると思う。

委員

アンケート集計について、地域間の温度差を把握するために地域別の回収率は集計できるか。徒歩やバスによる生活についてもわかるような集計をしてほしい。

## 事務局

集計結果に反映させます。地域別の回収率も出すことができます。

## 委員

アンケートで世代間の違いを把握したい。行きたくても行けないところがあるのでは。暮らしとまちの姿について、多様化している働き方、生き方に関する相談機能を盛り込んでどうか。相談機能を有する、生活の拠点や施設をつくることも大事ではないか。

## 会長

再確認すると、「まちづくりビジョン」の素案について、基本的な中心部と周辺部の考え方と、それを組み立てていく上で必要な課題については、今の案を理解している方向でいろいろな意見をいただいたので、ビジョンについてはこの方向で進めたい。特に中心部のあり方については、いろいろな意見が出ているので、事務局としての考え方を工夫していただければ。

## 3 その他

(特に意見なし)

## 4 次回（第5回）審議会開催日程予定

### 事務局

- ・庁舎候補地の現地確認日は、後日調整する。
- ・第5回審議会  
日時 平成31年2月21日（木）午後2時～  
場所 氷上保健センター 2階 ホール

## 5 閉会

### 副市長

まちづくりビジョンは、審議事項が大変盛り沢山で、十分な議論の時間が取れず、申し訳なく思っている。将来のまちづくり、市民の暮らしの姿、まちの姿についての議論は、非常に重要である。

市民の皆様にとっては、20年後に自分たちはどのような暮らしをしているのか、まちはどのように変わっているのかという思いがあるものと感じている。20年後という中長期において、具体的なイメージを考え、「こんな暮らしになっている」「こんなまちになっている」という姿を明確にすることにより、その実現に向けて都市構造のあり方や都市機能の配置が自ずと決まってくるものと考えている。委員の皆様方から提案を頂いて、「夢の持てる20年後」を提示していきたい。これからもよろしくお願ひします。

副会長

本日は年末のお忙しい中、第4回審議会にご出席いただきまして、誠にありがとうございました。皆様、お疲れ様でした。